

平成27年度第2回府中市子ども家庭支援センター運営会議録

▽日 時 平成27年2月3日（水） 午後2時から午後3時30分まで

▽会 場 府中市子ども家庭支援センター「たっち」 ミーティングルーム

▽出 席 出席者側 西郷会長、石川副会長、大伴氏、江口氏、小出氏、佐藤氏、長部氏、
福田氏、関根氏（9名）

事務局側 前澤子育て支援課長、関根同主幹兼子ども家庭支援センター所長、市
ノ川同課長補佐、石田同センター相談担当主査、菊水同センター主任、
原田同センター相談員、宮城多摩同胞会同センター係長、谷井多摩同
胞会同センター相談員、大喜多同センター事務職員（9名）

▽欠席者 小口氏、本田氏、中田氏、五十嵐氏、肥後氏、三田村氏（6名）

○事務局

皆さんこんにちは。定刻となりましたので、ただ今より平成27年度第2回府中市子ども家庭支援センター運営会議を開催いたします。ご出席の皆様におかれましては、ご多用のところ、本会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。

会議の開催にあたり、事務局より皆様をお願い申し上げます。本会議の内容について、後日議事録を作成しますので、会議の音声の録音をさせていただきます。ご理解いただきますようお願いいたします。また、ご出席の皆様よりいただいたご発言を正確に録音するために、マイクの使用をお願いいたします。マイクの受け渡しについては、事務局で行わせていただきますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

それでは、配付資料の確認をさせていただきます。

（資料確認）

○事務局

次に、次第の2「挨拶」に移らせていただきます。本会議の開催にあたりまして、子育て支援課主幹兼子ども家庭支援センター所長より、ご挨拶申し上げます。

<所長挨拶>

○事務局

それでは進行につきましては、会長、よろしくお願いいたします。

○会長

こんにちは。第2回府中市子ども家庭支援センター運営会議を始めさせていただきます。次第の3「議題」の（1）からです。事務局よりご説明をお願いします。

<事務局より資料2の1～16について説明>

○会長

事務局より説明がありました。ご質問やご意見はいかがでしょうか。

○出席者

リフレッシュ保育の実績が伸びていることは評価できる点ですが、具体的には重複利用が多いのか、新規が多いのか、利用者からの評判などお聞かせください。また、子育て支援ボランティア養成講座の参加者の実績に変化がないようですが、どんな方が参加されているのか、PR方法まで教えていただければと思います。

○事務局

リフレッシュ保育については、新規登録も重複利用も多くなっています。最近では子どもが1歳になるのを待っていたという方も多くなっております。また、子育て支援ボランティア養成講座については、調べてまいりますので少々お待ちください。

○会長

では調べてくださっている間に、他にはいかがでしょうか。

○出席者

個別ケース検討会議についてです。生活指導主任会などで「ケース会議」と非常によくこの会議名を耳にしますが、具体的にどのような会議なのか教えていただければと思います。

○事務局

要保護児童対策地域協議会に附属する会議となっております。要保護にあたる事例について、関係機関が集まって情報共有と支援方針決定を行います。特徴として、子どもたちの安全を確保するために、親などの了承を取らずに個人情報の共有を行って良いことになっていることです。参加者にはもちろん守秘義務が発生します。1事例に対しての関係機関が多い場合には、定期的集まって最新の情報を共有しながら支援方針を決めることもありますし、導入の部分で1度の開催のみということもあります。事務局は子ども家庭支援センターになりますので、関係機関の担当課から依頼を受けて実施する形になっております。

○会長

要保護児童対策地域協議会での守秘義務には法律で決められた罰則規定があります。一般的な倫理規定のレベルを超えているものです。

また、個別ケース検討会議ですが、場合によっては学校でも、ケース会議や個別ケース検討会議と呼ばれる会議を持っていることがあります。ただ、その家庭の生活問題が極めて深刻である場合には、要保護児童対策地域協議会の個別ケース検討会議に持ち上がるという役割分担があります。府中市の場合はいかがでしょう。学校単位でもお持ちですか。

○事務局

本市ではサポート会議という、学校主導のケース会議があります。家庭問題については子ども家庭支援センターに依頼があつて実施することが多くなつておりますが、サポート会議も含め、本市の教員は家庭問題のことについても精力的に対応してくださっています。

○会長

他にはいかがでしょうか。

○出席者

子ども家庭サービス事業の対象は在宅でしょうか。また、前年度も減少傾向にあつたと記憶しておりまして、その際は料金が変更になつたという説明があつたかと思いますが、今年度さらに減少傾向ということなので、もう一度詳しくその理由を教えていただければと思います。

○事務局

まず、子ども家庭サービス事業というのは、ここにある5つの事業の総称であり、全て在宅に対してのサービスになります。減少の理由につきましては、子ども家庭サービス事業の他にも様々なサービスが充実してきたことによるものではないかと考えております。

○出席者

多様なサービスを使うことによって分散していると考えればよろしいでしょうか。

○事務局

他のサービスとしては、学童保育の延長ということで6年生まで利用できるよつになつたことや、延長保育の充実として、市立保育所でも19時まで預かってもらえるよつになつたことなどが挙げられるかと思つます。ファミリー・サポート・センターも活動件数、会員数ともに伸びてきていますので、利用者が自分のニーズに合わせてサービスを選べるよつになり、利用が分散してきていてのではないかと考えています。

○会長

先ほどの質問について調べ終わったよつですので、事務局より続きをお願いします。

○事務局

子育て支援ボランティア養成講座の広報等についてですが、広報の方法を含め、参加者募集について試行錯誤を繰り返しているところですよ。昨年度はチラシを少し校正したこともありました。実績値については、昨年度は1日目が11名、2日目が12名の参加、今年度は1日目が9名、2日目が2名という状況になつています。チラシ配布も文化センターや学校など、関係機関のところで配布したり、メールを配信したり、ふちゅう子育てひろば応援団にも協力を仰いだりということで工夫を行っています。しかし実績としてなかなか参加者が

増えない現状があり、今は内容も工夫したほうがいいのではないかとということで、講師の方を変えてみたり、日程を短くしてみたり、半日に分割して行ってみたりしながら現在もよりよい活動に向けて尽力しています。

○会長

ありがとうございました。少し関連して、お話しさせていただきます。先週、高知県主催の事業で高知県の西から東まで2泊3日で移動いたしました。その際にお世話になった子育て支援の係長が、高知県のブランドを売るというお話をされていました。高知県は元々海のものや山のものなど有名なものが多く、その係長は様々なブランド化ということを担当していた方でした。その方が言うには、地元の商品をブランドとして人々の中に根づかせるためには、まず一点、その商品自身の良さを保障しないとイケないということでした。例えば、有機肥料を使っているなど物の良さのことです。だからこの話の場合は、講座の内容ということになります。

もう一点、ストーリーがないと人の心には響かない、ということでした。こちらの講座に置き換えると、一般的な講座というよりは、何かテーマがあるとか、府中市内ないしは府中の近くで、新しい試みをしている子育て支援関係のことを行っている方々を呼ぶとかということが、ストーリーということになるのではないかと思います。講座の個性というのが見えることが大切で、もっと明白な、今回行かないと次は行けない、というようなことです。そして最終的にはブランディング、つまり、この講座に来ればすごいことが聞ける、ということで、この講座に出ていない人は「府中市の子育て支援に関わっているとは言えない」という意識を府中市の人たちに持ってもらうことです。何か少し工夫をすると良いのではないかと思います。この講座自体が悪いものではないし、必要なものだと思いますし、これからも続けていったほうが良いと思いますし、ただ小規模化すれば良いということでもないと思います。先ほど会議が始まる前に、副会長と話しておりましたが、地域活動をする人が減っています。今までは専業主婦の人たちが担う部分が多かったのですが、女性も働いていることが多くなりましたので、地域活動の担い手が減っているという現状もあります。しかしながら、こちらのタイプの講座に参加する人が増えているという地域もありますので、何とか地域活動を盛り立てるため、歯を食いしばって、頭をひねっていただいて、踏ん張っていただくと良いなと思います。

では、他はいかがでしょうか。

○出席者

「ふちゅう子育て応援団」というのは、子育てひろばの交流会を行っている団体で、現在子育て支援ボランティア養成講座にその団体の方々が行っているかどうかということ、初めの頃は行かれる方もいらっしゃったかと思いますが、今はほとんど行っていないのではないのでしょうか。講座と交流会が近い時期にあるので、来づらいという状況があるのではないかと思います。ボランティアについては、地域でひろば活動を行っている方々のように子育て支援に尽力してくださっている方に講座を受けていただけるような形で声をかけていかなくてはならないのではないかと思います。現在はそこまでの意識には至っていないのではない

かと思しますので、少し検討していただければと思います。

○会長

ありがとうございました。

関連して一点、東京都の子育て支援員の講座がありますが、これは一定時間で一定カリキュラムを行うのであれば、市が主催しても良いということになっていたかと思えます。実際には市主催で1年間で修了させるのはなかなかの時間数の授業を行うことになるので難しい部分もあるかと思えますが、例えば2回に分けて2年間で1セット、何か実質的に修了証などが取れるような仕組みの機会にするという手もあるかもしれません。制度に乗りながら参加者を増やし、その上ブランド化できます。アイデアとして御検討いただければと思います。他はいかがでしょうか。

○出席者

地域で子育てひろば活動を方は大勢いらっしゃいますが、継続していくには場所代など必要な資金が沢山あるかと思えます。支援金などの獲得にもかなり苦戦しているという話を聞くこともあるので、子育て支援ボランティア養成講座の参加者や資格を取った人がいるひろばには助成金が出るなどの制度があれば、また前向きに活動していけるのではないかと思います。

○会長

ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

○参加者

保育支援課でも地域支援の活動で、文化センターで行っている「ポップコーン」という事業があり、ボランティアの方に御協力いただいているところです。現在、保育支援課には42名のボランティアの方に来ていただいております。少し人数も増えているところです。ただボランティアの方々の高齢化が進んでいることが悩みです。平均年齢は60歳前後になっていますが、皆さんとてもお元気で、ご自身の子育ても終えられて、大変穏やかにお子さんの面倒を見ていただいております。保育支援課でも交流会を年に1回、また講習会として保育園で保育士や栄養士や看護師から、専門的な内容の講習を行っています。

今年度は少し趣向を変えて、昔の遊びなど、日野市では行っているところもあるようですが、実践的な内容で行うことも考えております。来年度以降に繋げられるように考えているところです。

○会長

ありがとうございました。現場で活動するボランティアの方々には実践的な知識は必要不可欠かと思えます。他はよろしいですか。

ではもう一点ですが、分析しておいたほうが良いのではないかと私が思っていることがあります。できる範囲で良いかと思えますが、例えば「交流ひろば」ですが、利用者数が大き

く増えています。前年よりも1,000人以上増えていますので、今年度末には1,500～2,000人位になるのではないかと思います。これは大きな成果だと思います。ただ、子ども家庭支援センターのひろば事業については、地域子育て支援拠点の事業目的である交流、要するに孤立しながら子育てをしている人を減らすという目的があるので、孤立世帯をどれほど減らせているのかということ、保護者の方に聞くという利用者評価でもいいですし、何らかの形で実績化しておくことも重要かと思います。イベントを行えば人は自ずと集まるものですが、交流できるかということ、思ったほどの効果は得られないんです。参加者数が多くなっていることも大事ですが、その中身も見ていくことが最重要ではないでしょうか。これにあたるようなことが他の事業についても実績化されることが大切ではないかと思います。

また、先ほどショートステイ等の実績減の理由として様々なサービスが増えたという話がありましたが、これはトワイライトが減る理由としてはかなり有力だと思いますが、必ずしもショートステイが減る理由になるかどうかは難しいところではないかと思います。ショートステイは場合によっては利用が少ないほうが良いこともあるので、利用者数が増えることだけが目的ではありませんが、必要な人に制度が届いていないとすれば課題になるのではないかと思います。

他はよろしいですか。無いようでしたら、次の議題に進みたいと思いますが、いかがでしょうか。

<異議なし>

○会長

それでは、議題（2）です。事務局より説明をお願いします。

<事務局より資料3-1及び資料3-2について説明>

○会長

事務局より説明がありました。物事を決定する機関ではないということ、をより明確にしたということです。皆様のご意見やアイデアをいただく場ということで文言を整理されています。これは府中市の基本的な方針に基づいて修正を行ったということだと思います。ご質問やご意見はいかがでしょう。

<異議なし>

○会長

それでは、議題（2）です。事務局より説明をお願いします。

<事務局より資料4について説明>

○会長

事務局より説明がありました。こちらは実際に現場を見せていただくということでよろしいでしょうか。

○事務局

はい。実際に見ていただきたいと思います。

○会長

それでは見学させていただくことにいたします。よろしくお願いいたします。

<修繕箇所等確認>

○会長

ありがとうございました。修繕箇所等について何かご意見、ご質問などいかがでしょうか。

○出席者

手洗い場が設置されていたのが良かったと思います。手洗い場設置への要望は以前からあったように伺っていましたが、感染症予防などの観点からも良いと思います。

○会長

他はいかがでしょう。社会福祉協議会の立場からはいかがでしょう。個人の立場からでも構いませんので、よろしくお願いいたします。

○出席者

修繕箇所については、実際に見せていただいて良く分かりました。その上で、大変多くの方に利用されているということや、利用者の皆さんが楽しそうに遊んでいる姿を見て、市内に必要な施設だということを改めて実感しました。

○会長

他はいかがでしょう。

○出席者

いつ見ても本当に立派な施設だということを実感しました。アクセスも良いですし、私も利用させていただいたこともあったので、その頃を思い出しながら見学させていただきました。そして改めて府中は恵まれていると感じました。私の友人も、府中市民ではないですが、登録しに来たこともありましたが、一緒に遊んだこともありましたが、子供の目線に立ってくれるのがとても気に入っていました。手づくりのおもちゃなどもボランティアの方などが作ったというお話を聞いて、こういった部分に、木のぬくもりなどを感じながら、親子の触れ合いにも繋がっていくのではないかと感じました。

○会長

では、副会長からも何か一言お願いします。

○副会長

私も孫が小さかった頃はよく一緒に来て利用させてもらいました。府中の中心部にこのような施設があることは、少子高齢化が進む中、府中市はすごく子育てしやすい場所ではないかと思っています。少子高齢化の歯どめとして役に立っていることもあるのではないかと思いますし、この施設に関わっている方々には、社会にとって重要なことをしているということに励みに頑張ってもらいたいと思います。

また、少し話が変わりますが、会長とも会議が始まる前に話したところですが、昨今ではボランティアをする方の数がかなり減っているということを感じているところです。民生委員もこの11月で改選がありまして、新しい人を探すところなのですが、なかなか引き受けてくれる人がおらず、苦勞しているところです。私自身、民生委員のほかに自治会長などもやっておりますが、違う団体や会議であっても、同じメンバーが平行移動していることが多い現状があります。ボランティアをするという雰囲気を地域全体に広めていかなければいけないと日頃より思っています。会長のおっしゃったボランティアのブランド化、つまり地域全体でボランティアをすることが府中市の特色だという特別感を持たせることで、ボランティアが浸透しやすくなるのではないかと考えています。

ただ、府中市は歴史と伝統のある町で、例えばお祭りを大事にするなど、ある意味で排他的で、地元の伝統行事などをやらないと地域にも目が向けづらいようなところもあり、シビアなところです。地元の伝統行事もちろん大事ですが、社会全体の福祉も大事だという理解のある町にしたいと思っています。

○会長

ボランティアというと社会福祉協議会とも関連しますが、先ほどのボランティア講座について、企画のところで社会福祉協議会に協力してもらおうとか、運営自体はこちらがやるとか、要保護児童対策地域協議会のように関係機関が集まってアイデアを出し合っていくというのもいいのかもしれない。

他はいかがでしょうか。

○出席者

こちらで発言することが良いのかどうか分かりませんが、この会議の実施の回数について、運営も安定してきて、内外からも高く評価をされて信頼も厚いところで、年度に1回の開催でも良いのではないかと考えていましたので、発言させていただきます。

○会長

他はいかがでしょうか。

<異議なし>

○会長

次第の4「その他」です。事務局より説明をお願いします。

<事務局より次第4「その他」について説明>

○会長

事務局より説明がありました。ご質問はいかがでしょうか。

<異議なし>

○会長

それでは、平成27年度第2回府中市子ども家庭支援センター運営会議を終わります。ありがとうございました。